

価値創造プロセス

▶ 社会課題

- グローバル市場拡大／貧富格差の拡大
- 労働人口の減少／都市集中・過疎化
- 情報格差拡大／情報セキュリティリスクの高まり
- 資源・エネルギーの削減
- 循環型経済・低炭素社会の実現

▶ お客様課題

- DXによるイノベーションの推進
- 新サービス開発の早期化
- 働き方改革／労働生産性向上へのニーズ
- 「2025年の崖」に伴う基幹系システムの入替えへの対応
- IoTセキュリティ対策

企業理念

▶ □□ P.05

マテリアリティ

▶ □□ P.17

ITを通じた
社会課題の解決

明日を支える
人材の創出

責任ある
企業活動の実行

CTCらしさを
生み出す経営資本

▶ □□ P.53



パートナーとの
協働

ビジネスモ

環境マネジメント

▶ □□ P.71

ミッションである「明日を変えるITの可能性に挑み、夢のある豊かな社会の実現に貢献する」ため、CTCグループは独自の強みを活かし、お客様や社会が抱える課題やニーズをビジネスを通じて解決していきます。

企業理念と密接に結びついたマテリアリティで長期的に創出する価値を見据えながら、強みである「ビジネスモデル」を力強く動かし、中期経営計画でその取り組みを加速させていきます。CTCグループらしい資本をこのビジネスによって磨き上げ、企業価値を持続的に向上させていきます。

MISSION (使命)

明日を変えるITの可能性に挑み、
夢のある豊かな社会の
実現に貢献する。

ビジネスモデル ▶▶ P.23

つなぎ創る
フルスタックITと
グローバルパートナーシップ

技

お客様との
共創

資本の
高度化

ビジネスモデルを支える制度・取り組み ▶▶ P.63

ビジネスモデルを強化する

人材戦略
▶▶ P.64

品質の追求
▶▶ P.69

持続的な成長を支える

リスク管理
▶▶ P.73

コーポレート・
ガバナンス
▶▶ P.76

財務戦略
▶▶ P.49

2021-2023年度 新中期経営計画
Beyond the Horizons
—その先の未来へ—

▶▶ P.35



お客様への
価値創出
&

社会を
豊かにする
価値の創出

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

Strength

「技」を持続的に成長させる

ビジネスモデル

当社は創業以来、お客様の課題を起点に、世界中の優れた製品やサービスを発掘し、自らの力とした上で、最適なソリューションにして提供することをビジネスモデルの軸としてきました。この過程で積み上げた技術とノウハウの集合体が、CTCの強さの核となる「フルスタックIT」とそれを支える「グローバルパートナーシップ」です。

ここで意味する「グローバルパートナーシップ」は、海外の付加価値の高いIT商材を持つベンダー（パートナー）を探して販売するという「マルチベンダーパートナーシップ」のみならず、新たな市場を創り出す起業家やそれを支援するベンチャーキャピタルとのパートナーシップ、そして新製品の種となる半導体などの設計企業やメーカーとのパートナーシップなども含まれる多様な関係を表しています。

当社は海外製IT商材の販売を主としたディストリビューターとは違い、ITが活躍すべき分野を先取りしてお客様のニーズを引き出しながら市場を創り出し、それに最も適したIT製品やサービスを国内・海外を問わず発掘し、自らの力とした上で提供することをモットーとしています。そのためにこの「グローバルパートナーシップ」は当社にとって重要な意味を持ちます。

このようなパートナーとともに創り、自らの力とした多くのITサービス商材は、お客様に先進技術を実践にご利用いただくという役割を担い、“Challenging Tomorrow's Changes”というスローガンのもと、当社の中で現在にも引き継がれ拡大し続けています。

市場動向や顧客ニーズのフィ

■ CTC Innovation Partners ▶

■ ITOCHU Techno-Solutions Am



グローバルパートナーとの連携と評価

- ベンダー認定パートナーランク／受賞実績
- ベンダー認定資格取得
- ベンチャーキャピタル・起業家とのネットワーク
- 国内はもとより、米国・欧州・中国・ASEANの
リサーチネットワーク

▶ 経営資本 ベンダーリレーション □ P.57

ロードバック／戦略的投資

経営資本 パートナリシップ □ P.59

erica, Inc. ▶ 経営資本 ベンダーリレーション □ P.57

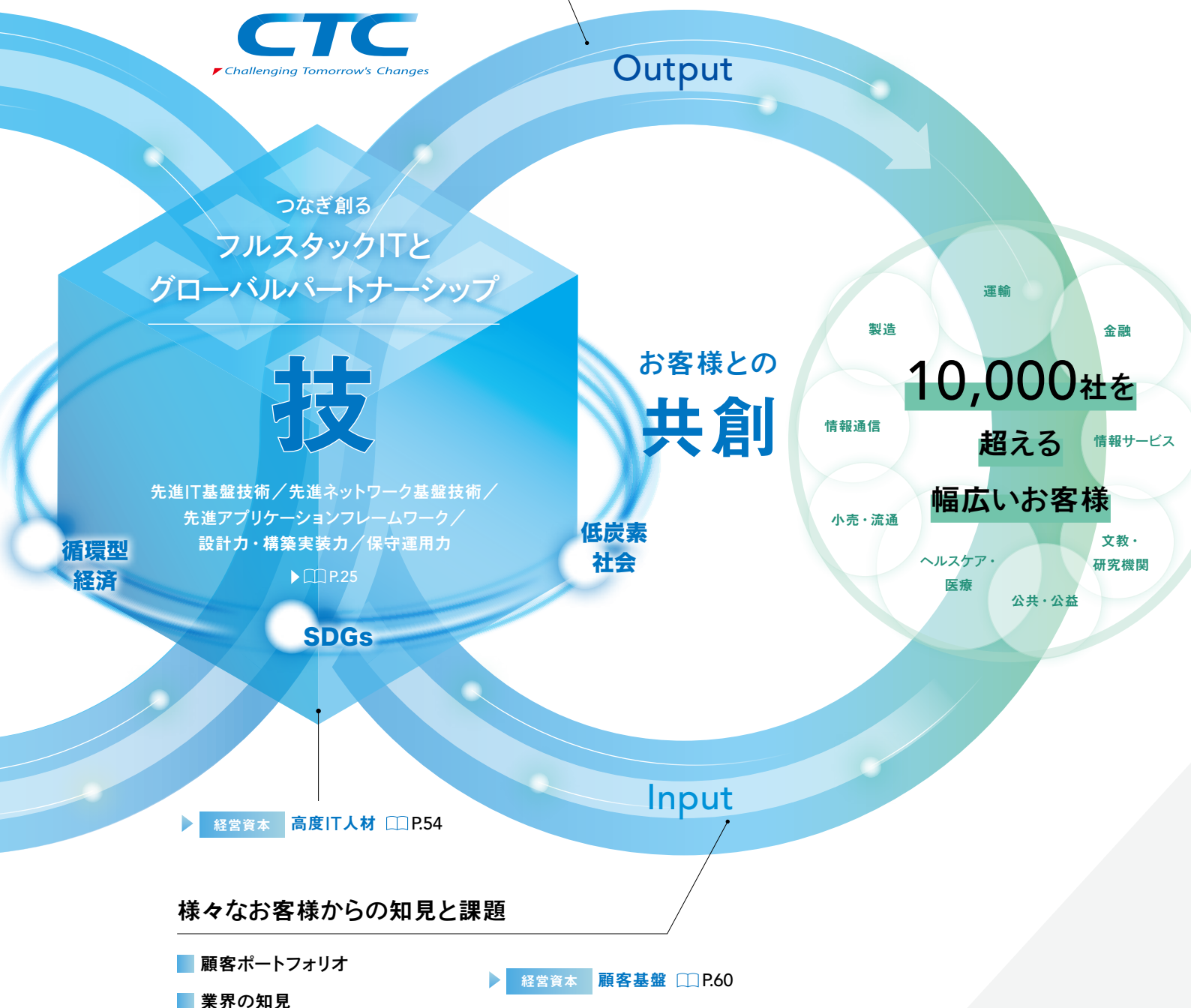
「フルスタックIT」によるサービス・サポート

■ DEJIMA／アジャイルオフィス

■ データセンター

■ 国内外のサービス拠点

▶ 経営資本 サービス提供基盤 □ P.61



Strength

CTCグループの「技」

つなぎ創る

フルスタックITと
グローバルパートナーシップ

新たなデジタルテクノロジーによる事業変革をもたらすのは、一つのITサービスからではありません。一つの事業モデルをデジタル環境に実装するためには、様々なITによるサービスを組み合わせ、セキュリティやユーザビリティにも配慮して実装しなければなりません。クラウド時代では様々な新しいサービスが次々とリリースされ、良いものをタイムリーに組み合わせて実装しなければ、より良いサービスの実現はできません。私たちはそれを支えるためのITサービス群を「フルスタック」で保有しています。その多くの選択肢の中からつなぎ創ることで、お客様は最適かつ最新のソリューションを活用することが可能になります。さらに私たちは、幅広い産業分野の顧客企業が抱える多様な課題やニーズによっては、メーカーに対する製品・サービスの改善提案や、不足する技術を自社で開発し補完することも行っており、最適解を模索し続けています。

注目される通信ネットワーク分野では、長年にわたり主要通信キャリアのネットワーク構築を手掛けてきた実績と知見を活かし、より高度で複雑な技術要件に応え、5Gを「作る」ビジネスで存在感を発揮していきます。また、5Gを「使う」ビジネスは、あらゆる「モノ」がネットワークに接続し、リアルタイムで情報が送受信される世界において、様々な産業で創出される可能性があります。5Gを「作る」ビジネスのノウハウに加え、幅広い業界でテクノロジーを通じて経営課題の解決に貢献してきた実績を持つCTCは、DXを推進しようとする企業にとって力強いパートナーとなります。

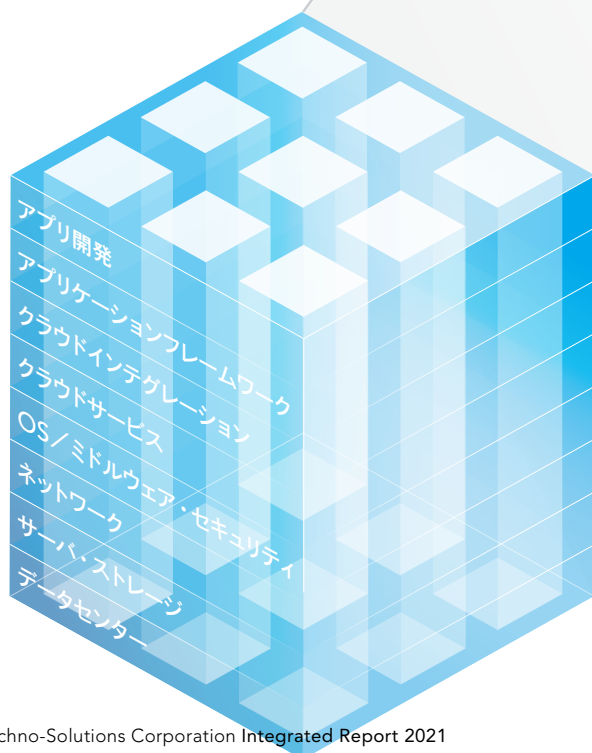
「拡張性」や「柔軟性」、「迅速性」が求められる事業環境に、多様な「グローバルパートナーシップ」を活かし、専門性の高い「フルスタックIT」サービスを最大限に活用しながら挑戦を続けていきます。

CTCグループのサービス群

設計

コンサル

提案





保守・運用サービス

デジタルサービス実現のため必要な構成要素のデータセンター、ITインフラからアプリケーションまでの全てをサポート

- ・CTCテクノロジー(株)
- ・CTCシステムマネジメント(株)
- ・CTCファシリティーズ(株) など

▶ 海外・国内主要グループ会社 □ P.48

業界ごとに特化した知識と経験を活用した開発

柔軟なアプリケーション開発ができるフレームワーク

ハイパースケーラーと自社クラウド、業務特化型SaaSを最適にインテグレーション

高品質できめ細かな自社クラウドサービス

アプリケーションを制御し、稼働環境を保証

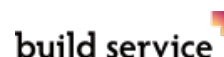
キャリアグレードからデータセンター・エッジまで

データセンター事業者からエンタープライズまで

自社で設計・運用まで

上記フルスタックITサービス群を活用し、最適解でサービス提供する高度IT人材

▶ 経営資本 高度IT人材 □ P.54



Azure



自社データセンター
(横浜、神戸、目白坂)

CTCファシリティーズ(株)

CTOメッセージ

「提供する技術に責任を持つ」という信念

私たちが上場を果たした頃、「営業力のCTC」として注目されました。その当時も今も、強い営業力を持っていることは強みの一つですが、その営業力を支えている技術力も「最後までやり遂げるCTC」と高くご評価いただいています。様々な業種のお客様へ新しいシステムを構築するために、様々な手段で技術を駆使して解決に導くことは、Slerとして当然のことです。しかしながら実際にこのように評していただけるのは、どんなトラブルがあっても自分たちの手で修復し、システムを日々動かし続けてきた各現場の地道な努力からなのです。創業時から「提供する技術に自らが責任を持つ」という姿勢を貫いてきた結果だと思えます。

海外の優れた製品を探し、輸入して国内で販売することは、当社の大事なビジネスモデルの一つです。高度経済成長期、製造業などが経済を牽引した日本にとって、海外の製品は

先進的と認識はされるものの、品質面では信頼性が低く導入に二の足を踏む状況であり、これと同時に、日本市場に進出したい海外企業においても高い障壁でした。

この状況に対してまず手を打ったのは、自前で日本全国に保守の拠点網を持つことでした。お客様に納品した製品が故障した時には、ただちに社員エンジニアが駆け付け、速やかに修理できる体制を作り上げることで、お客様は安心して海外製品を導入できるようになります。この環境を自らが創ったことにより、海外ベンダーからも安心して彼らの製品・サービスを任せていただけるようになりました。お客様とベンダーの双方から「CTCに任せよう」と言っていただきながら、需給を取り持つ立ち位置で責任を果たすこと、これが当社事業の原点になります。

原点から磨き上げられたCTCの強み「フルスタックIT」

ここで得られた信頼は、当社の持つ技術力の拡大に大きな影響を与えています。導入からサポートまでを自らの手で運用するために、技術習得やサポート拠点の開設に全力で取り組む「覚悟」があったからこそ、新たに進出しようとする海外ベンダーからも「CTCに取り扱ってほしい、保守も任せたい」と積極的なアプローチをいただけているのだと認識しています。現在当社は

ハイパースケーラーからスタートアップ企業まで、他のSlerにはないバランス感覚でマルチベンダーを実現しています。そして当初の姿勢を貫き、多くの技術において自らが設計・構築から保守・運用まで対応できる「フルスタックIT」を実現しています。

早くから通信キャリアとの協業を重ねてきた歴史もあり、今でこそインフラ構築やネットワークの分野が得意と言われる



A portrait of Takahashi Takashi, a middle-aged man with glasses, wearing a dark blue suit, white shirt, and a striped tie. He is sitting at a dark table with his hands clasped in front of him. The background is a light-colored wall with a window.

大久保 忠崇

専務執行役員
社長補佐(技術戦略特命)
(兼)CTO

当社ですが、根底にあるのは、どれだけ技術が高度になり複雑化しようとも、専門性の高いエンジニアが協力し合って必要な技術「全て」に対応する「フルスタックIT」の強さで、皆様からの信頼をいただいていると自負しています。

私たちは、単なる販売代理店としてではなく、お客様を代表する立場でベンダーと話をします。日本市場からのエスカレーションはもちろん、時には彼らの将来に向けた技術やビジネス、マーケティング戦略などについてCEOやCTOとディスカッションを行いますし、頻繁にトップが交代するシリコンバレーでは、双方の次世代メンバーを引き合わせることもします。そしてお互いが本音で、想いや考えを語り合うことで、時に対立しか

ねないビジネス戦略であっても着地点を探してともに汗を流せる関係になるのです。ここまで思想を深く理解し合うからこそ、「ともにIT技術の未来を創る」パートナーとしての関係を築いていけるのだと考えます。

また、このように様々な戦略について議論できる関係を、多くのベンダーと築いていることも重要です。IT技術の進化スピードは速く、かつオープン化が顕著な現在において、技術の寿命や良し悪しは玉石混淆です。一部の企業からの動向だけを見ていたのでは、真に最適なシステムの提供はできないということです。

CTOメッセージ

いま、CTCの真価を発揮するとき

近年におけるオープン化の流れにより、お客様自ら構築できる領域が増え、Sierが不要になるのではないかという話もあります。確かにローコード／ノーコードの技術が広がり、内製化が進む領域はあるかもしれません。当社もアジャイル開発において早くからOutSystemsの取り扱いを開始しており、お客様への導入も拡大していますが、これらの開発環境自体の整備は誰かがやらなければならない領域です。

またお客様がDXを進めて新しい価値を自力で生み出していくには、これまでに経験のない多くのICTやその周辺技術を習得しなければならず、現実的ではありません。だからこそ、あらゆる環境やフレームワークを提供し、40年以上蓄積してきた技術やノウハウを持つSierである当社グループが、今、真価を発揮する時だと考えています。

次の価値を創る「Value Creator」



当社は、現有のITコア技術だけで持続的な成長ができるとは考えていません。何故ならば、ツールや手法を活用した生産性の向上や、新しいITシステムの導入による効率化には限界があるからです。ルーティン化された作業の自動化やAIの活用が進む中、人間にはAIで対応できないような創造性のある仕事をするのが求められています。FinTechをはじめ、あらゆる業態同士で技術の融合が進んでいるのも、AIにはできない創造性の一つです。この1年はテレワークへの転換やワクチンの予約など、一般の人がいかにシステムをストレスなく使うかという話題が多くありましたが、年代にかかわらず、誰もが当たり前に見えるシステムになるには、既存のUI/UXなどの概念に対して、もっと生活の視点に近い感覚を加える必要があります。

これからは、ゲームやエンターテインメントの世界にある臨場感あるデザインや、アートの世界でさえもITシステムに融合されていくことになるでしょう。私たちが目指すのは、お客様の効率化や生産性向上という価値を超え、人が生きる社会基盤そのものをインテグレートして次の価値を創る「Value Creator」なのです。

エンジニアの「Version Up」

「Value Creator」を実現するためには、当社エンジニア個々の「Version Up」を図り、私たちが持つ「フルスタック」の強みをさらにアップグレードする必要があります。人事制度の改定も視野に入れながら、柔軟なワークアサインが可能な「適材適所」の配置が可能な仕組みづくりを進めます。

「適材」というとスキルや経験にフォーカスされがちですが、エンジニアにとっては「興味」が新たな重要要素に加わりました。社内コミュニティの「Dojo」を運営していても感じるのですが、新しい技術への好奇心や、自分でシステムやプログラムを作ることへの探求心が強いからこそ、自主的に5Gや量子コンピュータなどの新しい技術習得に取り組めるのだと思います。そんな意欲を会社として後押しして、複数の技術領域を拡充できる環境を創っていきたいと考えています。



「社会の一員として社会課題を解決する」CTCであり続ける

私たちは、次の10年、20年を見据えて進化を遂げるための転換期にきています。IT業界は成長産業と言われ、様々な社会課題をITで解決しようと努力していくことは当然のことながら、一方で、急激に成長した産業であるがゆえにIT業界全体が抱える課題もあります。ITを活用することにより生まれる廃棄物、データセンターやスーパーコンピュータなどの巨大なシステムが必要とする膨大な電力の使用は、気候変動をはじめとする地球環境に影響を与えます。これらは、私たち自身が解決すべき課題として取り組まなければなりません。

当社はこの転換期に、技術の会社としての原点を見つめ直します。設立当初より続けている保守や修理の重要性を忘れず、自らの手でファシリティを守り保ってきた歴史を尊重しながら、新しい技術や製品そして新たな考え方や手法も

取り入れ、IT業界が取り組むべき課題を自分事として捉えてチャレンジする「Value Creator」、そんなCTCグループであり続けたいと願っています。



これまでのあゆみ

お客様のニーズと戦略、世界のベンダー技術と戦略をつなぎ、双方からの信頼を積み重ねながら成長し続けています。これからも未来を冷静に見据えながら、強みとなる技術力を培っていきます。



私たちが電子計算という技術分野に足を踏み入れた1958年、当時の業務は「科学技術計算」の分野で、新幹線の設計やオリンピック競技場改札口の待ち行列の計算など、国家事業を裏方で支援するものでした。この「科学技術計算」は、今日では高速道路や橋梁、超高層ビルの建築などの構造解析のみならず、気象予報や地震、津波のシミュレーションへとその領域を大きく拡大しています。国家レベルでの再生可能エネルギーに関するプロジェクトへの参画、太陽光や風力発電の最適な設置場所の推定や発電量の予測など、独自システムの開発も行っています。

インフラ基盤に関わるビジネスは1972年に始まります。汎用コンピュータの導入が始まった頃、様々な公的サービスを展開するために、短期間に大量な情報のデータ化が必要となり、データ入力

の基盤となる製品の販売を始めました。入力業務の効率化によりコスト削減を実現し、各自治体での受託計算事業の拡大に大きく貢献しました。また、当時のお客様のSI企業への転換を支え、変化するITへの対応を今でも支援し続けています。

これら、私たちの前身である伊藤忠テクノサイエンス(株)と(株)CRC総合研究所は1999年、2000年に相次いで上場を果たします。大型のデータセンター事業を始めていたこと、またUNIX製品の取り扱いがヒット商材となっていたこともあり、営業力の強い会社として注目を浴びました。今でもお客様から高く評価をいただいておりますが、その営業力をしっかり支える私たちの技術力の生い立ちについてもさらに知っていただきたいことのひとつです。

2015

2019

2020

クラウド

DX

4G

+動画 ゲーム IoT

5G

+自動運転 遠隔医療 VR/ARなど

2017年

▶ 未来技術研究所を新設

先端技術の発掘と開発、新たな事業モデルの創造などをミッションとした組織「未来技術研究所」を新設しました。

同年10月には都内にオープンイノベーション専用スペース「DEJIMA」を開設し、お客様やスタートアップ企業とともに新事業を創出するための場として活用しています。



2018年

▶ アジャイル開発専用スペース開設

開発スピードの向上と、変化への柔軟性を兼ね備えたアジャイル開発への取り組みの一環として、2018年に東京都と愛知県に専用スペースを開設しました。アジャイル開発は、刻々と変化する環境に適応したアプリケーションをタイムリーにリリースしたい、というお客様のニーズにお応えする新たな開発手法です。開発の効率化や早期化を実現する本手法への対応は、CTCの開発・SI領域での特長のひとつとなりました。



2019年

▶ インドネシアのIT企業2社買収

インドネシアの現地IT企業である、システム構築に強みを持つPT. Nusantara Compnet Integratorと、アプリケーション開発をコアビジネスとするPT. Pro Sistimatika Automasiの2社を買収しました。これにより、ASEAN地域全体をカバーする体制が整い、グローバルビジネスのさらなる拡大を目指します。



2021年

▶ 新事業創出を目的とした組織を設立

DXを契機に当社独自の新たな価値を生み出し5年、10年先を見据えた新たな収益源となる、新事業の創出を目指した組織として2021年4月に新しく「新事業創出・DX推進」を立ち上げました。

お客様のビジネスをDXでサポートしながらビジネスのノウハウを学び、「未来技術研究所」で築いたコミュニティやお客様、パートナー企業とともに新たなビジネスモデルを創り上げていきます。

● 2019年 ▶ 次世代人材育成のための財団設立